
もしもあの日に帰れたら

ふるぽん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もしもあの日に帰れたら

【Nコード】

N3380F

【作者名】

ふるぽん

【あらすじ】

私は現在31歳某大手企業のそこそこの要職についています。今はまだ、世間一般的に言う『勝ち組?』の部類に入っているといえます。しかしここに来るまで、今の自分になるまで本当に数々の恥ずかしい経験をしてきました。今会社において偉そうに指示を出したり、部下の教育をしたりしている自分がいる反面、数々の失敗をしてきた自分がいて、その両面を知っているたった一人の存在としてはなんとも恥ずかしい気持ちになります。この小説を通じて、その全てを告白しその度に何を考えどう行動してきたのかを伝えていきたい

いと思います。

幼少編

Ⅱ 幼少編Ⅱ

恥1 『人生初の天敵』

1977年に私は生を受けました。どちらかというと体は小さめ（今もです）、両親にとって

最初の子供ということもあり、しっかりと愛情を受けて育ちました。3歳になり保育所に入った私は、人生で最初の天敵というものに出会います。

名前はT地…。この日から3年間にも及ぶ長きに渡り、私はT地に苦しめられることとなります。体が小さく、良く女の子と遊んでいた私は当時のガキ大将T地の格好の的でした。

毎日何かしらのいじめを受け泣かされる日々が続きました。

泣いてる暇があったらかかっていく勇氣を持てていたらと思います。今もその時の名残か、私は自分に不利な状況では戦うことから逃げてしまうところがあります。負けるかもしれない勝負に挑むことを学んでおけばよかったと後悔しています。

今の私のスタンスはあの頃から始まったような気がします。もしもあの頃に戻ってやり直せるなら、駄目もとで取っ組み合いたい。

そして大きなものに立ち向かう勇氣を手に入れたい。

*

恥2 『リベンジ』

保育所時代が終わり小学校に入学。もちろん同じ校区のT地と同じ学校そして…

同じクラス。世の中嫌だと思っていたら悪運を引き寄せるものですが、しかし、小学校に入ってから私のとT地の立場は入れかわったのです。

理由は小学校でできた友達でした。

保育所時代、近くには4つの保育所がありました。この4つの保育所で交流が行われ

その中でドッチボール大会がありました。そこで既に友達になっていたのがT山でした。

T山とその後友達になったI。この2人は両方ともガキ大将でした。しかもT地よりも強い…

そのことで私はT地は弱いと思い込み形成逆転。この時から6年間、保育所時代の丁度倍

いじめ続けました。小さい子は単純です。ほんの小さなことから勘違いし、自分のほうが強いなんて思っちゃいます。そしていつの間にか、いじめられっ子は小学校の中でも3本の指に入るいじめっ子に変身してしまうわけです。とはいえ、強いものに立ち向かう勇氣を持ったわけではなく、弱いものを嗅ぎ分ける鼻を持っただけでした。T山には結局逆らえず、小さな庭のガキ大将といった感じでした。T山には当時の体格などからして負けるとは思っていませんでしたが、がむしゃらに向かっていく根性がなかったです。負けたら格好悪いからという理由で戦えませんでした。

もしもあの日に帰れたら、T山に本気で挑む勇氣を持ちたいです。そしたら負けても何か変わっていたように思います。T地は克服できても根本的な立ち向かう勇氣は未だに手に入っていないません。

*

Ｔ地にリベンジを果たした私でしたが、新しい仲間兼天敵Ｔ山に苦しめられることになります。小学校２年の時何かでもめて私１人が悪者になった時がありました。相手方のリーダーはもちろんＴ山です。そしてクラスで学級会が始まりました。その時の先生も問題だと思っていますが

私１人が廊下に出され、残りのクラスメイトで私に対しての意見を言わせ始めました。

内容は丸聞こえ。ほとんどＴ山が言っているのですが、他の何人かもちろほらと…

私はその場にいれなくなり母の務める職場へと逃げ込みました。逃げて母に言えば何とかしてくれるという甘えがあったのだと思います。

自分自身で戦う勇気がなかったのです。

思い起こすと私は良く権力を傘に着ていました。たまたま近所に住んでいる子が小学校の

上級生で、何かあると『上級生にいいつけるぞ！』ってＴ山を脅したりしていました。

Ｔ山は現に何回かこの上級生に泣かされています。

自分では戦わず人の力を借りて威張る私がそこにはいました。本当に恥ずかしい過去です。

もしもあの頃に戻るのなら自分の力で戦う根性を持ちたいです。何回やられても立ち向かっていく勇気を手に入りたいです。そういう意味で保育所時代のＴ地はすごいと思います。

形成は逆転しいじめられるようになって、絶対に立ち向かってきました。

泣きながら、殴られながらも向かってきました。

あの姿勢は大人になった今きつと役に立っているように思います。未だにあの頃と同じ根性なしの私は、今になってやっとＴ地から学んでいます。

恥4『お漏らし』

小学校の2、3年当時、私は良く学校の帰りに我慢できずお漏らしをしていました。

大のほうです。

ほぼ毎日だったように思います。

理由は学校で大便することができなかったからです。

どこでどうなったかプライドが高く、格好つけの私は大便をしていることを周りに知られる

ことが恥ずかしかったのです。今もその傾向はあります。もちろん今はお漏らししないですよ。ちゃんと仕事場では大便できるように成長しました。

本当に意味のない格好良さの定義を持っていたんです。どこでそんな性格を身につけたのか

今でも理解に苦しみます。両親もそういうタイプではなかったし、同様にお風呂では下を隠す傾向にあります。最近では隠すのが周りにとっては変にうつるので頑張っ出ていますが、基本隠したいです。

自分にコンプレックスがあるのでしょうか？他人の評価を気にしすぎなのでしょうか？

別に恥じることのないことを恥じて、本当の恥をかく。そんな部分が私にはあるように思います。人間誰しもがそうでしょうが、周りから良く思われたいために本当の自分を隠すところがあると思います。私の場合特にその部分が強かったのかも知れません。

現在に至っては大部分が変化してきました。これは考え方、価値観が変わったからだと思います。もっと早くに今の価値観を持つことができていたら、もっと面白い今になっていたかもしれません。そう考えると、もしあの日に帰れたら私が過去の私にしっかりと今の

価値観を植えつけたと思います。しっかりと自分らしく行動することを承認したいと思います。

今世の中に足りないことは、自分は自分のままでいいんだという承認をしてくれる人の存在だと感じています。過去の自分に、周りばかりを気にせず自分らしくあっていいのだと承認してあげたいと思います。

*

恥5『嘘つき』

私はこれまでたくさんの嘘をついてきました。習い事のそろばんに行くのが嫌で指をのどに突っ込んで吐いてみたり、眠いから風邪を引いた振りをしたり…昼ごはんは1000円もらってお釣りは無いと言い小遣いにしたり…でも一番の嘘は自分を格好良く見せるための嘘でした。

例えば小学校時代、私は少年野球をやっていました。その当時良く親戚と会う機会があったの

ですが、そこで良く嘘の自慢話をしていました。

柵超えのホームランを打ったとか、試合に負けてるのに勝ったとか…今考えると小学生の段階で柵越えは言いすぎでした。多分皆私の嘘を分かっていて聞いていて

くれたのだと思うと、恥ずかしすぎます。

又、中学からはサッカーを始めました。ここでも良く両親に嘘の報告をしていました。

負けたのに勝ったとか、得点決めてないのに決めたとか…

今になって本当に格好悪いなと思います。

大人になって自分の弱さや、恥ずかしいところをさらけだせる人間が本当の意味で格好良い

人間だと気付きました。

もしあの日に帰れるなら嘘のないありのままの自分で全てに接したいと思います。

*

恥6『立笛』

小学生時代の1大事件といえば私が6年生の時の立笛事件であろう。当時クラスの女子の中で最も大きく、男相手でも物怖じしないN子というのがいた。

彼女こそ学級会の伝統を作り上げた第1人者である。

当時学級会ではその日あった嫌だったことを言うコーナーがあった。それに対し該当者は謝罪するというものであったのだが、ある日の謝罪のあとに

いいですか？つまり許してくれますか？という言葉付け足すこととなった。

普通はどんな態度であれ悪さをする奴等の謝罪とあって、謝罪は簡単に受け入れられていた。

しかし。N子はこの文化を変えた。

N子はいいいですか？の問いかけにほぼ100%駄目出した。聴こえませんか、もつとちゃんと

謝ってくださいとか：

これが当時我が校の伝統となり、謝る行為の大切さを学んだ。

お笑い界などでこの手のコントが使われるが、あれは間違いなくN子が生んだ歴史だ。

そのN子。結構気分に波がある。ある日普通に話しかけたら気分の悪い態度をとられたので

、『なんやねん。その態度。』って言うといきなりプッシングされた。

あまりにムカついた私は、とつさに腰につけていた立笛を振かぶり
脳天にくらわせた。

あまりの衝撃にN子はうずくまりそのまま泣き続けた。

両親も呼ばれ謝罪。なんとか許してもらえたものの、さすがにやり
すぎたと反省した。

N子とは元々仲が良かったのでその後きまずい日々が続いた。

20歳くらいに再開しその時の話をしたついでに、もう一度きちん
と謝っておいた。

今回は1回で許してくれたので安心したが、今振り返ると本当にと
んでもないことを
するやつだと思う。

もしあの日に帰れるなら、あんなことをしないでもっと女の子に優
しい男になるのに…

とはいえ今が既に優しくないから、まずは今の自分から改善するべ
きですね。

N子ちゃん。あの時は本当にごめんなさい。この場を借りて再度お
詫びします。

*

恥7『格好付けの緊張し〜』

最近の私の分析によると、緊張する原因は大きくわけて2つある。

1つは目標に対しての期待と不安からくるもの。試合に勝ちたいと
か、成功したい、評価

されたいというのが是に当たる。

もう1つは、最初のものに似ているが異なる。それは良く見られた
いという気持からくる

緊張だ。前者は目標にたいしての前向きな気持からきている緊張で
あるため、案外うまく

作用することがある。

しかし後者は少し違う。だいたいうまく作用しない。必要以上に自分にプレッシャーがかかるし、いいところを見せようという気持が周りのことを気にさせるためがむしろに

挑めない。この後者の緊張と固い絆で結ばれていたのが若き日の私である。

今も若干その名残はあるが、かなり軽減されてきたと思う。

特にスポーツの時にこの緊張という病に侵される。

そんな風になったのは多分喜怒哀楽をしっかりと出していなかったからであろう。

特に哀の部分。当時泣くことは格好悪いことと思っていた私は人前で泣けなかった。

泣いたら負けで、弱い人間だと思っていた。それと同じように、こわいという感情に関しても

表現したり誰かに話したりできなかった。

だから緊張の原因にたどり着くことが出来ず、うまくいかなかったら言い訳して自分の

格好悪さを隠していたように思う。

格好悪くても一生懸命なほうが良い。今はそう思えるようになってきたが、もうかれこれ20年

の間そんな緊張と付き合ってきた。

もしあの日に帰れるなら、もっとかけるだけの恥をかいてプラスの緊張感をしっかりと

味わえる自分に変わりたい。恥をかくことを恐れない気持があれば、もっと自分という人間を

輝かせる気がする。

幼少編（後書き）

「現在の私の性格」

過去の恥集を語る前に、今現在の私の性格（他人から見た）について語らなければなりません。

現在の私は、簡単に言う元気な明るい、人見知りなんてしないタイプにうつっているようです。又、誰に対しても言いたいことを言う図々しいタイプでもあるようです。

私の裏を知らない人の評価だけを聞いたらとてもいい人でしょう。根本は変わっているかどうか分かりませんが、今までの失敗が私をそんな風に見せているのでしよう。

今でも過去の私、現在の私、他人から見た私、本心の私、どれが本当の私かわからなくなります。

そんな私の31年間分の真実を読み、共感してもらったり、誰かの励みになったりできたら嬉しい次第です。

2008年10月20日 ふるぽん

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3380f/>

もしもあの日に帰れたら

2010年12月30日02時09分発行